

A市いじめ・不登校対策委員会研修会

いじめ・不登校を生み出さない学級づくり

名城大学 曾山和彦

2010.7.22 1

学級づくりの基礎・基本

□ ルールづくり

レポートとの違いは？

□ ふれあい(リレーション)づくり

プラグマティズムで行こう！

・使えるものは何でも使え
・役に立つ知識こそ真の知識

教育のプロとして腕の見せどころ

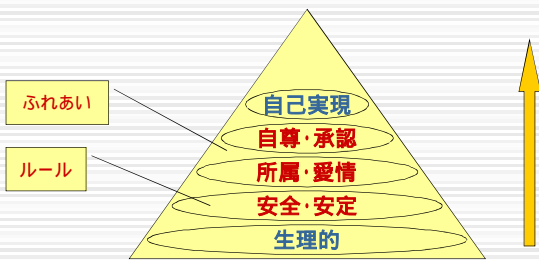


2

マズローの欲求階層説

参考

- 第一欲求（生理的）が満たされると、第二欲求（安全・安定）が生じ、これも充足されると第三欲求へ進む。上位欲求は下位欲求がたとえ部分的にせよ満たされて初めて発生する



かかわり不足の子どもたち

環境の変化

- 情報化、スピード化
- 三間(時間、空間、仲間)の消失
- 核家族化 等

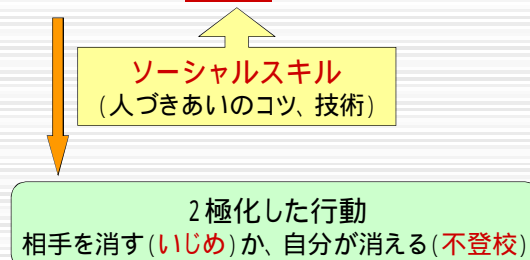
昔に比べ、人とのかかわり不足の子どもたち

子どもに限らず、大人も

4

人とのかかわり不足が生む問題1

- 子どもたちの社会性が弱まっている



5

参考研究

自然に獲得されないソーシャルスキル

児童生徒の社会的スキルに関する縦断的研究
(石川信一ら、2007)

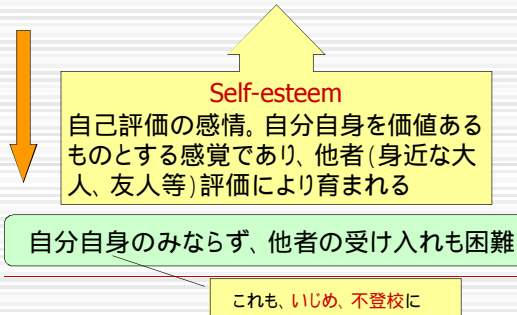
< 研究概要 >

小4～中1までの児童生徒対象。スキルは高学年が低い。不適応感も悪化。スキルは自然の時間経過によっては獲得されない。先生や友だちとの関係づくりスキルを学ぶことで学校不適応が改善

6

人とのかかわり不足が生む問題2

- 子どもたちの**自尊感情**が低下している



7

現代の子ども像と支援の基本方針

「ソーシャルスキル」、「自尊感情」が落ち込んでいるのではないか

「人は人の中で人になる」
～人はかかわりの中で癒され、育つ～

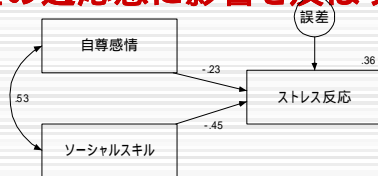
対人関係のコツ(技)を身につけ、自分に「OK!」
と言えるよう、グループ体験等を活用する

よりよい「かかわりの力」が育まれる

8

参考研究

児童の適応感に影響を及ぼす要因



5・6年児童(194名)。児童のストレス(不安、怒り、無気力、身体反応)に影響を及ぼす要因は複数考えられるが、自尊感情とソーシャルスキルの2要因だけでもストレスの36%を説明できる。特に、**ソーシャルスキルの影響**が大きい。また、ソーシャルスキルと自尊感情には相関関係がある。

つまり、ソーシャルスキルを育むことで、自尊感情も高まり、ストレスの軽減(適応感の向上)につながるという知見である。

社会性発達の質的变化～10歳前後

- 10歳前後を境に、道徳性(大人に委任 自分で判断)、友人・母親関係(母への同調 友人への同調)が質的に変化する。
- 10歳までの「**教える生徒指導**」、10歳からの「**考えさせる生徒指導**」

- ・中学校、高等学校で「管理的」すぎないか
- ・小学校で「自発的」を強調しすぎでないか

発達段階を考慮したソーシャルスキル&自尊感情の育み方

<10歳までは>

- ・ソーシャルスキル育成 大人(親・教師)が教える
- ・自尊感情育成 大人(親・教師)が褒める

<10歳からは>

- ・ソーシャルスキル育成 本人に考えさせる
- ・自尊感情育成 友だちに褒めてもらう

<全般>

- ・全て大人(親・教師)がしてみせる(モデル)
- ・1日10回は声をかける(名前を呼ぶ等)

チェック

～日頃、どんな言葉をかけているか～

<チェック> 大人(親・教師)の言葉は、子どものソーシャルスキルや自尊感情を育てているのか?

- ・朝起きてきて「おはよう」を言わない子どもには?
- ・言われなくてもゴミを拾ってくれた子どもには?
- ・授業中、おしゃべりしている子どもには?

12

ソーシャルスキル&自尊感情を育む ～伝わる言葉をかける～

- 東の横綱; 「いいところ探し」
- 西の横綱; 「対決のアイメッセージ」
- 東の大関; 「リフレーミング」
- 西の大関; 「？」
- プラスα; 「例外探し」



授業、生活場面等における大人の腕の見せどころ

13

伝わる言葉のかけ方; 東の横綱 ～「いいところ探し」による言葉かけ～

呪文のように 「いつでも、どこでも、リソース(資源・財産)、リソース！」(黒沢先生の言葉)

「褒める・勇気づける・認める」をバランスよくかける

<いいところ探しを誤解した! ? >

ある担任の先生と、気になる子への支援を相談していたときのエピソード。

- ・「A君のいいところはどこですか？」(私)
- ・「一つもありません」(担任)

14

「褒める」と「勇気づけ」

褒め過ぎに
注意!

褒める; 「は偉い、上手、すごい」など。全て肯定のユーメッセージ。役割上、上から下の者にかける言葉

勇気づけ; 「ありがとう、うれしい、助かった」など。全て肯定のアイメッセージ。役割に関係なく並行にかえられる言葉

失敗しても自尊心、所属感を失わない態度(byアドラー)

家・教室を「ありがとう」でいっぱいしましょう!

問題の小さな芽を摘む

- 全校種において一番多いいじめは、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、全体の64.1%を占める。

この時点での対応が重要
(割れ窓=ブローケン・ウィンドウ理論)

「登校渋り」などの小さな不登校の芽を摘むことも同様

いじめ・不登校の芽を見逃さない校内体制が必要¹⁶

伝わる言葉のかけ方; 西の横綱 ～「対決のアイメッセージ」による言葉かけ～

行動

相手の行動を非難がましくなく描写する

影響

相手の行動が自分に与える影響を伝える

感情

その影響が自分に抱かせる感情を伝える

伝わる言葉のかけ方; 東の大関 ～「リフレーミング」による言葉かけ～

「人生、考え方一つ」(三屋裕子さんの講演から)

1. 人見知り
2. おしゃべり
3. おせっかい

考え方次第で悩みは消える(論理療法 byエリス)

18

伝わる言葉のかけ方;西の大関 ~「?」による言葉かけ~

子どもの言動が気になったら、いつも『?』をつけて言葉をかけるといいですよ(ある保母さんの言葉)

<言葉かけの例>

- ・「あれ~? 今の言い方は?」
- ・「君と先生の約束は何だった?」
- ・「さん、何かあったの?」

19

伝わる言葉のかけ方;プラスα ~「例外探し」による言葉かけ~

うまくやれていること(例外)はきっとある!

欠席が多い
(問題)



登校することが
ある(例外)

例外の責任追及
なぜ、例外が起きたのかを心に貯めておくことで、声をかけられる

20

今、「支援の引き出し」に入っているもの ~子ども、保護者、担任への支援者として~

- ・手柄は本人に返す
- ・あの人が頷くだけで出る勇氣
- ・時には一緒に漂う
- ・ヘルプではなく、サポート
- ・解決の答えは本人がもっている

21

主な参考・引用文献

- 「親業」、トマス・ゴードン、サイマル出版、1977
- 「今の子どもたちは自分に誇りをもっているか」、園田雅代、児童心理7月号特集、金子書房、2007
- 「気になる子への対応術」、会沢信彦・曾山和彦、教育開発研究所、2008
- 「時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書、2010

「学校におけるカウンセリングを考える会」資料
<http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama>

22